

臨場感を備えた離散事象シミュレータを用いた接遇マナーと専門知識の効率的な学習支援システムの開発

高田 知樹

富山県立大学 電子・情報工学科

2022 年 11 月 15 日

背景

昨今の IT 技術の発展に伴い、IT の浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること、という定義であるデジタルトランスフォーメーションが、様々な分野で盛んに行われている。その中でも、教育の分野では、特に注目を集めている。

目的

本研究では、FlexSim という離散事象シミュレータを用いて、薬剤師教育の専門分野である処方箋の問題を解いてもらい、その正誤データを処理することによって、回答者に適切なフィードバックを行い、教育の効率化を目的とする。

蓄積したデータをテキストで保存したあと、csvに変更するようにした。図1は、問題の正誤データを蓄積する場合の流れである。

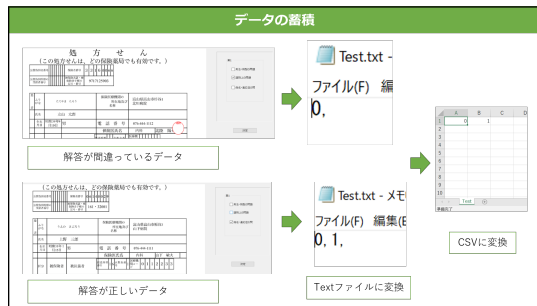


図 1: データ蓄積の流れ

問題数を 10, 解答者を 20 人としてデモデータを用意し, k 平均法によりクラスタリングを行った. 用意したデータは, 正答率, 解答時間, 自信度でありそれぞれの値を標準化し, 5 つにクラスタリングした.

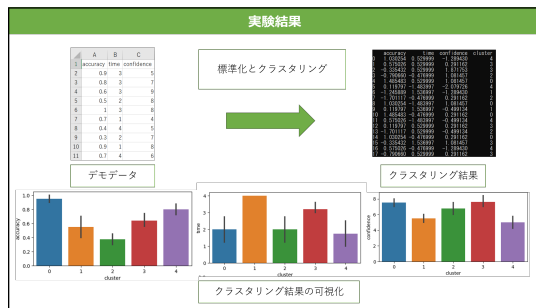


図 2: データ分析の流れ

まとめ

- データの蓄積方法を説明した
- でもデータを用いて分析を行った,

今後

- 本研究のデータの解析を, 実際のデータを用いて行う
- 接遇マナーや臨場感ついての内容を入れることができていなかったなので, そちらについても考える.